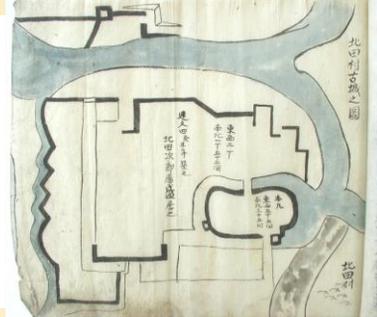


慶長5年(1600)上杉氏が 当初新城を計画した北田城跡 (河沼郡湯川村)



絵図は「北田村古城之図」で、江戸時代中期に描かれたものです。上に日橋川、右側に湯川が流れ、日橋川を越えた喜多方市塩川町部分にも土塁が存在していた。



上杉景勝・直江兼続は、若松城に代わる新城の場所として、計画していたのは、会津盆地中央に位置する葦名時代の北田城（河沼郡湯川村北田）でした。土塁の一部が残っているだけです。北田城は、城跡の場所と日橋川との落差が5mから10mあることから水堀や運河を引けなかったためです。新城の築城計画は、景勝が会津に入った慶長3年からあったようで、秀吉が死去する慶長3年8月より前の4月や7月は、領内の道路や橋、諸城の整備を命じ、家康との対立が表面化する以前からしています。居城の整備は、まず先に向羽黒山城という最後の砦になる山城の整備を優先し、その後に平城の整備に取りかかったのです。
文責 石田明夫

